

JAPIO

(c) 2005 JPO & JAPIO. All rights reserved.

03743610 **MAGNETIC COSMETIC**

Pub. No.: 04-108710 [JP 4108710 A]

Published: April 09, 1992 (19920409)

Inventor: SHIGA YOKO

Applicant: SHIGA YOKO [000000] (An Individual), JP (Japan)

Application No.: 02-222566 [JP 90222566]

Filed: August 27, 1990 (19900827)

International Class: [5] A61K-007/00; A61K-007/02

JAPIO Class: 14.4 (ORGANIC CHEMISTRY -- Medicine)

Journal: Section: C, Section No. 969, Vol. 16, No. 356, Pg. 46, July 31, 1992 (19920731)

ABSTRACT

PURPOSE: To obtain a magnetic cosmetic capable of securing the promotion of blood flow important for the health of skin with harmless magnetic force without using chemical substances causing inflammation, etc., by dispersing a ferromagnetic material in demagnetized state in a cosmetic and magnetizing the material after applying the cosmetic to the skin.

CONSTITUTION: Fine particles of a demagnetized ferromagnetic material such as magnetite or manganese zinc ferrite are dispersed in a medium solidifying after use (preferably a dispersion medium selected from a film-forming polymeric viscous substance and a gel-forming montmorillonite or an oil and fat, etc.) and the dispersion is used as a magnetic cosmetic capable of forming a cosmetic film of a magnetized magnetic material having blood flow promoting effect by magnetizing the fine particles after dispersed or compounded in the medium in fixed state. The agglutination of the particles by the magnetism during the preparation of the cosmetic can be prevented by this process.

⑫ 公開特許公報(A) 平4-108710

⑮ Int.Cl.⁵

A 61 K 7/00

識別記号

B

W

U

T

庁内整理番号

9051-4C

9051-4C

9051-4C

9051-4C

⑬ 公開 平成4年(1992)4月9日

7/02

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全2頁)

⑭ 発明の名称 磁性化粧料

⑯ 特 願 平2-222566

⑰ 出 願 平2(1990)8月27日

⑱ 発 明 者 志 賀 洋 子 静岡県静岡市緑が丘町13-1番地

⑲ 出 願 人 志 賀 洋 子 静岡県静岡市緑が丘町13-1番地

1. 発明の名称

磁性化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 強磁性体例えば、マグネタイト、マンガン亜鉛フェライト等を消磁状態で化粧料中に分散させ、化粧後磁化させる事を特徴とする磁性化粧料

(2) 分散媒がフィルム形成性高分子粘性物質及びゲル形成性モンモリナイト又は油脂等から選択される特許請求範囲第1項の化粧料

3. 発明の詳細な説明

この発明は化粧料使用の効果面で、肌に大切な血行促進を炎症などの原因となる化学的な物質によらないで、無害な磁力により確保する方法に関するものである

(産業上の利用分野)

この発明は化粧料に広く利用されている血行促進のための各種化学物質にかわる物であり化学物質に見られる皮膚への副作用なしに肌を利用する事が出来る

(従来の技術及び発明の解決しようとする課題)

従来、磁性体を化粧料に配合する発想は試みられず、又実態面で磁化されたものを化粧料配合しても、化粧料製造中又は使用中に磁性により凝集集合化が起き使用出来ない

(問題を解決する為の手段)

磁化されていない強磁性体の微粒子を使用後に固化する媒体中に分散させ、化粧料として使用後、微粒子が媒体中に固定化分散又は固定化配向された後、これを磁化させ磁化磁性体の化粧膜を得る事が出来る

(作 用)

得られた磁化磁性体膜から磁力線の存在が確認された

(実 施 例)

1. ポリビニールアルコール5グラム、ポリビニールピロリドン1グラムにグリセリン5グラム及びマグネタイト0.1グラムを加える十分に攪り合せてから、エチルアルコールを20グラム、水60グラムを加え分散溶解さ

せ粘性のある化粧料バックを得る

このバックを皮膚面に薄く塗り乾いてから膜

を磁化させて、磁化磁性体バック膜を得る

2. ゲル化性モンモリナイト5グラム、モノステアリン酸グリセリン0.5グラム、パルミチン酸0.2グラム、マンガン亜鉛フェライト0.1グラム、プロピレングリコール20グラム、熱水74.2グラムを加温型分散器にいれる。一万回転以上で5分間加温しながら分散させ後冷却してペースト状のメークアップベースを得る。このベースを皮膚上に塗り磁化したのち、通常のメークアップを行う

(発 明 の 効 果)

マグネタイトを0.1%配合したポリビニール薄膜を毛を剃ったうさぎ背部皮膚に作り磁化した後、その血流量を交差式熱電血流計で測定したところ対象のポリビニール薄膜のみの部位に比べ約3.4%増加したのが確認された

特許出願人 志 賀 洋 子

⑫ 公開特許公報(A)

平4-108710

⑤Int.Cl.⁵

A 61 K 7/00

7/02

識別記号

B
W
U
T

庁内整理番号

9051-4C
9051-4C
9051-4C
9051-4C

⑬公開 平成4年(1992)4月9日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全2頁)

⑭発明の名称 磁性化粧料

⑮特 願 平2-222566

⑯出 願 平2(1990)8月27日

⑰発明者 志 賀 洋 子 静岡県静岡市緑が丘町13-1番地
 ⑱出願人 志 賀 洋 子 静岡県静岡市緑が丘町13-1番地

1. 発明の名称

磁性化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 強磁性体例えば、マグネタイト、マンガ
ン亜鉛フェライト等を消磁状態で化粧料中に
分散させ、化粧後磁化させる事を特徴とする
磁性化粧料

(2) 分散媒がフィルム形成性高分子粘性物質
及びゲル形成性モンモリナイト又は油脂等か
ら選択される特許請求範囲第1項の化粧料

3. 発明の詳細な説明

この発明は化粧料使用の効果面で、肌に大
切な血行促進を炎症などの原因となる化学的
な物質によらないで、無害な磁力により確保
する方法に関するものである

(産業上の利用分野)

この発明は化粧料に広く利用されている血
行促進のための各種化学物質にかわる物であり
化学物質に見られる皮膚への副作用なしに肌
に利用する事が出来る

(従来技術及び発明の解決しようとする課題)

従来、磁性体を化粧料に配合する発想は試
みられず、又実態面で磁化されたものを化粧
料配合しても、化粧料製造中又は使用中に磁
性により凝集集合化が起き使用出来ない

(問題を解決する為の手段)

磁化されていない強磁性体の微粒子を使用
後に固化する媒体中に分散させ、化粧料とし
て使用後、微粒子が媒体中に固定化分散又は
固定化配向された後、これを磁化させ磁化磁
性体の化粧膜を得る事が出来る

(作 用)

得られた磁化磁性体膜から磁力線の存在が
確認された

(実 施 例)

1. ポリビニールアルコール5グラム、ポリビニ
ールピロリドン1グラムにグリセリン5グラ
ム及びマグネタイト0.1グラムを加える
十分に練り合せてから、エチルアルコールを
20グラム、水60グラムを加え分散溶解さ

せ粘性のある化粧料バックを得る

このバックを皮膚面に薄く塗り乾いてから膜

を磁化させて、磁化磁性体バック膜を得る

2. ゲル化性モンモリナイト5グラム、モノステアリン酸グリセリン0.5グラム、パルミチン酸0.2グラム、マンガン亜鉛フェライト0.1グラム、プロピレングリコール20グラム、熱水74.2グラムを加温型分散器にいれる。一万回転以上で5分間加温しながら分散させ後冷却してペースト状のメークアップベースを得る。このベースを皮膚上に塗り磁化したのち、通常のメークアップを行う

(発明の効果)

マグネタイトを0.1%配合したポリビニール薄膜を毛を剃ったうさぎ背部皮膚に作り磁化した後、その血流量を交差式熱電血流計で測定したところ対象のポリビニール薄膜のみの部位に比べ約3.4%増加したのが確認された

特許出願人 志賀洋子